

# 理解深め、治療、予防

6月14日は「認知症予防の日」。認知症は脳の構造や機能などによって認知機能が低下し、日常生活に支障が出てくる状態をいう。症状は時間かけてゆっくりと進行していくので、早期発見と適切な対応で施設や進行を遅らせることができる。

昨年、アルツハイマー病の進行制御を目的とした新薬が国内で発売され、島根県内でも患者への投与が始まっている。

認知症への注目度は高い。それでもなる可能性がある認知症への理解を深め、早めに気付いて治療や予防につなげるために社会全体で体制を整えていくことが重要だ。

**鳥取大医学部認知症予防学講座教授  
日本認知症予防学会理事長**

**浦上 克哉氏に聞く**

認知症予防の現状や課題について、鳥取大医学部認知症予防学講座教授で日本認知症予防学会理事長の浦上克哉氏に聞いた。

## MCI 早期発見、大きな一步

新薬登場、大きな一步

早期発見、進行抑制へ

早期発見、進行抑制へ

早期発見、進行抑制へ

早期発見、進行抑制へ

早期発見、進行抑制へ

早期発見、進行抑制へ

早期発見、進行抑制へ

早期発見、進行抑制へ

早期発見、進行抑制へ



【プロフィール】うらかみ かつや 1980年代から認知症の診療・研究に取り組む。鳥取大医学部保健学科生体制御学講師を経て、同学部認知症予防学講座(寄附講座)教授。同学部付属病院(米子市)、信生病院(安来市)で認知症の診療を行っている。

レカネイマ

レ